

[ポスター発表] 研究報告

インターネットと運用技術シンポジウムポスター発表原稿の 準備方法 (2024年9月20日版)

運用 蒲夫^{1,a)} 能嶋 憂奈¹ 竹酔 細羽^{1,†1,b)}

How to Prepare Your Paper for IOTS Poster session (version 2024/9/20)

1. はじめに

情報処理学会インターネットと運用技術シンポジウム (IOTS) ではポスター発表セッションを設ける。査読のあるシンポジウム論文と明確に区別できるように、シンポジウム論文集に掲載するポスター発表の予稿は、本稿のように最大2ページとする。投稿にあたっては、このテンプレートを参考にして予稿を作成されたし。

予稿のフォーマットは研究会報告のそれをもとにしたものである。ただし、ポスター発表の予稿の本文に記載する内容は、発表の概要のみであるため、研究会報告での「概要」(著者氏名と本文の間に小さめの文字で表示される部分。TeX ファイル中で`\begin{abstract}`から`\end{abstract}`まで)は不要である。これら以外に大きな相違はないので、「研究報告原稿 (PDF ファイル) 作成について^{*1}」もあわせて参照されたし。

ポスター発表セッションの予稿に書くべき内容は、

- 和文題名
- 著者情報 (氏名・所属)
- 英文題名
- 本文 (二段組で記載された発表概要)

である。題目の左上には、ポスター発表セッションの予稿であることを示す「[ポスター発表] 研究報告」を入れ、シンポジウムの査読論文と容易に区別できるようにしていただきたい。このサンプル LaTeX ファイル (poster-jsample.tex)、クラスファイルおよびスタイルファイル (ipsj.cls と iotsposter.sty) を使えば、これらについて特に苦勞することはなく、元々の概要を省いたことと、

和文題目の左上にポスターセッションの予稿であることを示す表記を追加、などの変更ために ipsj.cls を修正した。「LaTeX スタイルファイル, MS-Word テンプレートファイル^{*2}」からダウンロードしたスタイルファイルを間違えて使わないように注意されたし。MS-Word で予稿を準備する場合は、この PDF ファイル「poster-jsample.pdf」を参考にして、レイアウトを適宜変更されたし。

1-2 ページで記述できる本文の文字数は、和文・英文題目の長さや著者情報によって異なってくる。この例では、二段組、一行あたり 27 文字で、60 行少々記述できるので約 1600 文字以上となる (このサンプル LaTeX ファイル、PDF ファイルでは 65 行である)。発表する内容を最大2ページに収まるよう、コンパクトにまとめて欲しい。本文部分については、章立てして読者に伝わりやすく記述して欲しい。

予稿を準備する場合、寸分違わずにこのレイアウトに一致させる必要はない。この LaTeX テンプレートを利用することを推奨するが、必須ではないし元々の研究会報告のテンプレートでも LaTeX と MS-Word では微妙にレイアウトは異なっている。ただし、前述の書くべき内容 (題目・著者情報・二段組の発表概要) があまりにも不十分であった場合には、不備として投稿を受理しないこともある。

投稿する PDF ファイルは、フォントを必ず埋め込み、セキュリティをかけずに作成する必要がある。詳細はこれまで前述の「研究報告原稿 (PDF ファイル) 作成について」に書かれているので、こちらを参照されたし。

ここまで書いたことは、IOTS のポスター発表セッション予稿の作成において注意してもらいたい話題であるが、それ以外は通常の研究会報告原稿の作成と大差はない。LaTeX で予稿を準備するときは、元々の tech-jsample.pdf と tech-jsample.tex に書かれている内容を一読しておくことを勧める。

¹ 情報処理学会

IPJS, Chiyoda, Tokyo 101-0062, Japan

^{†1} 現在、逢坂インターネット運用技術大学院大学

Presently with Ousaka Institute of Internet and Operation Technology

^{a)} cover.unyo@ipsj.or.jp

^{b)} cybernetics@oiot.ac.jp

^{*1} <http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/genko.html>

^{*2} <http://www.ipsj.or.jp/journal/submit/style.html>

2. おわりに

さて最大2ページを満たすには少々寸足らずになってしまった。工夫の方法は様々だが、ここは時節柄 (学生諸氏におかれては意味不明かもしれないが) 伝統的な手法で余白を埋めることとする。ぞうの卵はおいしいぞう。ぞうの卵はおいしいぞう。ぞうの卵はおいしいぞう。ぞうの卵はおいしいぞう。ぞうの卵はおいしいぞう。ぞうの卵はおいしいぞう。ぞうの卵はおいしいぞう。ぞうの卵はおいしいぞう。ぞうの卵はおいしいぞう。ぞうの卵はおいしいぞう。

参考文献

- [1] 文献 1
- [2] 文献 2
- [3] 文献 3